

続・ふるさと

こぼれ話

大島家の筆子塚

神奈川県湘南の茅ヶ崎市の北に寒川神社で有名な寒川町がある。その寒川町で収集した史料のなかに、明治時代初めに芳賀町から出された手紙が残されていた。手紙には、寺子屋の教え子二百人の名前を刻んだ石塔をつくったから見に来てほしい、と書いてある。



弟子たちがつくった師匠(政七)の筆子塚

手紙を出したのは、寺子屋を開いていた西水沼の大島家である。大島家には、さまざまな古文書とともにその手紙の下書きが残されている。大島家が寺子屋を開いていて、その教え子によって西水沼天満宮に六歌仙の絵馬が奉納されていることは知られていたが、石塔の存在については、町史編さんの中で見落とされてしまった。

石塔は一般に筆子塚と呼ばれ、寺子屋の教え子(筆門・筆子)が師匠を戒名と俗名が記され、他の石には四面すべてに教え子の名前が村ごと、石面全体にびっしりと彫られている。



大島家の墓地のなかに、筆子塚は残されている。最上部には、寺子屋の師匠大島政七と妻の利与の戒名と俗名が記され、他の石には四面すべてに教え子の名前が村ごと、石面全体にびっしりと彫られている。

第4回

大島政七がいかに慕われた寺子屋の師匠であったかを物語っている。

編集後記

□日本語って難しい。先日、出席した会議で、「役不足ではありますが、〇〇に変わって挨拶させて頂きます」と、お偉いさんの秘書が言っていました。テレビで毎年、勘違い日本語の調査結果を公表していますが、「役不足」もその一つ与えられた役目が自分の能力以上に私なんかで申し訳ないんですが、…みたいに使っていませんか？本当はその逆です。このときばかりは内心ハハアッと優越感に浸れました。

が、近頃の高校生の会話「バリデコってあびんなきゃ〜」って何のことかわかりますか？まだ若者に属すると思っていたのに…。(フ)



(体長18mm・後翅長14mm)



日本で一番小さなトンボ。谷津田などの土手にモウセンゴケやミミカキグサなどが生育する湿原の浅い水溜りが発生地で、成虫は水域から離れることなく、アキアカネのように移動しないので産地は数限られる。

雌は黄色で腹部が太く褐色と黒い斑紋がある。雄は橙色で成熟すると紅赤色となる。

町内では数カ所しか観察例がなく貴重種である。豊かな自然環境の芳賀町として誇れるのはそこに生息する貴重な動植物があり、たとえばゲンジボタルやハッチョウトンボ、ミクリ(植物)などであり、それらはただ単に個体を移動して放しても増えるものではなく、生息する環境が必要である。それを大切な財産として守り、大勢の皆さんに知ってもらい後世に伝えていくことが重要である。

- 編集 芳賀町広報広聴委員会 ☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課 栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>
- 苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898

